

# Red Hat Ansible Automation Platform 2.2 の新機能

Red Hat® Ansible® Automation Platform 2 は、IT チームがより一貫性のある効率的な方法で自動化コンテンツを作成し、組織全体で自動化プロセスを共同管理し、必要に応じて自動化能力を容易に拡張できるようにします。最新リリースである Ansible Automation Platform 2.2 は、新機能、機能拡張、強化されたエンタープライズ自動化エクスペリエンスを提供します。

## 1 自動化トポロジーを大規模に可視化する

Automation controller からアクセスできる自動化トポロジービューアーにより、ホップ、実行、ハイブリッド、およびコントロールノードなどを含む、極めて複雑な自動化トポロジーさえもグラフィカルに可視化できるようになりました。

新しいトポロジービューアーにより、ユーザーは複数のサイトにわたる自動化の実行状況をより明確に把握することができます。Automation controller からアクセスできるこの新たなツールは以下のことを可能にします。

- ▶ IT 運用チームの業務が単純化され、より複雑な自動化実行トポロジーのサポートやトラブルシューティングが改善されます。
- ▶ Automation mesh で新たに提供されるプライベート・オーバレイ・ネットワークの基本的な実装を可視化します。
- ▶ Automation controller と統合して、シンプルなものから複雑なものまでデプロイメントとトポロジーを可視化します。

## 2 証拠保全のセキュリティ機能を採用する

コンテンツ署名は、Ansible Automation Platform 2.2 で [テクノロジープレビュー](#) 対応機能として利用できる、セキュリティ重視の新機能です。Ansible 自動化コンテンツの新たな証拠保全フレームワークを確立し、エンドツーエンドのコンテンツ署名と配布を実現します。デジタル署名のコレクションから始まり、将来的には実行環境も含めて、この機能はお客様の企業で実行される自動化が認定され、コンプライアンスに適合していることを保証できるようにします。

この新しいフレームワークは、Ansible Automation Platform のエクスペリエンスにまたがり、今後のリリースで進化を続けていく予定です。

## Automation Hub と Red Hat Ansible 認定コンテンツ

新たに提出された Red Hat Ansible 認定コンテンツは、データの整合性を確保し、コンテンツの所有権を確認するため、すべてデジタル署名されます。Red Hat およびパートナーの Ansible 認定コンテンツは、console.redhat.com の Automation Hub を通じて署名され、ダウンロードからデプロイメントまでエンドツーエンドのセキュリティを実現します。

## プライベート Automation Hub

プライベート Automation Hub インスタンスに公開する際に、ユーザー構築、コミュニティ、およびサードパーティの Ansible Content Collections に署名します。

## 3 更新された開発者用ツールで自動化する

Ansible Automation Platform 2.2 には新たにバンドルされたコンテンツツールがあります。これは、[Ansible-lint](#) というテクノロジープレビュー対応機能として提供されています。

[Ansible-lint](#) は、実証済みのプラクティス、パターン、行動を促進することで、コンテンツ作成エクスペリエンスをさらに向上させるコマンドラインツールです。主なメリットは次のとおりです。

- ▶ 意見が集約された戦略とサポートされるツールによる、チーム全体で一貫した作成者エクスペリエンス
- ▶ 他の一般的な継続的インテグレーション (CI) ツールとの統合により、Ansible Automation Platform のカスタムコンテンツのテストと、より大規模なビジネスワークフローへの統合が容易に
- ▶ 新しいバージョンの Ansible Core で動作するよう、ユーザーが Playbook をアップグレードするのを支援 (Ansible Automation Platform 1.2 (旧 Red Hat Ansible Tower 3) は 2023 年 9 月に提供終了が予定されているので、移行の事前準備として有効です)



# Red Hat Ansible Automation Platform

その他、注目すべき開発者用ツールの更新は以下のとおりです。

- ▶ Automation content navigator 2 (`ansible-navigator`) に、コンテンツの作成を容易にする以下のような機能が追加されました。
- ▶ `ansible-builder` と `ansible-lint` のネイティブパススルーモード
- ▶ `Execution environment` における「アドホック」な `ansible` コマンド実行のネイティブサポート
- ▶ `ansible-navigator` インストールのシンプルな設定管理。アクティブな設定または変更された設定は Visual Studio Code (VS Code) で明確に識別可能
- ▶ 新たにバンドルされた VS Code 拡張で、Ansible Automation Platform コンテンツ作成の言語サポートが提供されます。たとえば、関連する Playbook コンテンツのスマートな自動補完、構文のハイライト表示、`jinja` ヘルパー、サポートされるツールとの直接統合などです。

## 4 ネットワークの自動化を拡張する

Ansible Automation Platform 2.2 にバンドルされる `ee-supported-rhel8 automation execution environment` の最新バージョンには、ネットワーク自動化の多数の機能改善が含まれます。そのうちの主なものを挙げます。

### パフォーマンスとレジリエンシー(回復力)の向上

- ▶ `LibSSH` (pylibSSH Python ライブラリ) がデフォルトの Secure Shell (SSH) 接続となり、必要に応じて `paramiko` にフォールバックします。
- ▶ **デフォルトで直接実行が有効です。** ネットワークモジュールはパッケージ化されてシェルで実行されるのではなく、Ansible コントロールノードで直接実行されるため、実行パフォーマンスがはるかに高速になり、実行ノードの中央処理ユニット (CPU) が削減されます。

### ネットワークユースケースの追加

- ▶ Red Hat がサポートする新しい `ansible.yang` 1.0.0 コレクション (以前の `community.yang` コレクション) に Ansible プラグインが含まれ、ネットワークデバイスによる YANG データモデルのサポートを支援します。
- ▶ 新しいリソースモジュール (`snmp_server` や、Arista、Cisco、Juniper、VyOS 向けのサポートされるネットワーク・オペレーティングシステムの `hostname` モジュールなど) がリリースされました。

▶ `ipaddr` フィルタープラグインが `ansible.utils` コレクションに追加され、IPv4 および IPv6 アドレス、サブネット、マスク、プリフィックスの操作に対する組み込みサポートが提供されます。

▶ 供給されたすべての Ansible ファクトを共通属性にグループ化するなど、集合的な構造化データを提示する新しい統合フィルタープラグインにより、Ansible のファクト操作が単純化されます。このプラグインは、`ansible.utils` コレクションにも追加されています。

### 非同期リリースの継続

- ▶ Arista EOS、Cisco IOS XE、Cisco NX-OS、Cisco IOS XR、Juniper JunOS、VyOS に対する機能強化の継続
- ▶ `ansible.netcommon` および [サポートされるネットワーク・プラットフォーム](#)・コレクションのメジャーリリース

## 5 Red Hat Insights の最適化された統合により、より多くのレポートと分析データを得る

Ansible Automation Platform 2.2 には、Red Hat Insights と自動化データを接続するためのよりシンプルで直感的な方法が備わっています。レポートと分析データを Ansible Automation Platform インフラストラクチャに確実に接続する役割を担う `insights-client` パッケージが、Red Hat カスタマーポータル上のバンドルされたインストーラーに追加されています。

自動化分析と Red Hat Insights の連携により、実用的なメトリクスとダッシュボードが得られ、エコシステム全体での運用上、ビジネス上、セキュリティ上の問題の特定、トラブルシューティング、解決に役立ちます。取り組みのパフォーマンスと投資対効果 (ROI) を完全に把握できるので、自動化の最適化と拡張に関してより多くの情報に基づいた意思決定ができます。Automation Analytics と Red Hat Insights は以下を含みます。

- ▶ **Automation calculator:** 自動化の ROI を計算します。
- ▶ **Savings planner:** 時間またはコストの節約量に基づいて、今後の自動化の予測および優先度付けを支援します。
- ▶ **Report:** 自動化のパフォーマンスとチームへの導入状況を把握します。
- ▶ **Drift:** システムへの一貫した構成を確保します。
- ▶ **Advisor:** 問題や修復方法を特定し、Playbook を生成して問題を短時間で解決します。



# Red Hat Ansible Automation Platform

チェックリスト

## 6 Red Hat Enterprise Linux 9 のサポートによるメリット

Ansible Automation Platform 2.2 の自動化機能および管理機能が Red Hat Enterprise Linux® 9 でサポートされるようになりました。

- ▶ **Red Hat Enterprise Linux 9 のコンポーネントをリリース:** automation controller、Private Automation Hub、private services catalog などの Ansible Automation Platform コンポーネント、および多数の開発者および作成者向けのツールが、Red Hat Enterprise Linux 8 または 9 の Red Hat Package Manager (RPM) パッケージとして Red Hat カスタマーポータルで公開されました。
- ▶ **PostgresDB 13 のサポート:** Red Hat Enterprise Linux 9 には PostgresDB バージョン 13 が搭載されるようになり、これを automation controller、Private Automation Hub、automation services catalog で使用することで互換性とパフォーマンスを向上できます。

### 詳細を見る

Ansible Automation Platform 2.2 の特長とメリットについての詳細をご覧ください。無料のオンデマンド Web セミナー「[Ansible Automation Platform 2.2: 次世代プラットフォームの機能強化](#)」にぜひご参加ください。

また、Ansible ブログでは、[新機能の概要](#)や複数の新機能に関する包括的なレビューをご紹介しています。

### 動画を見る

この 8 分間の[概要説明の動画](#)では、Ansible Automation Platform の最新バージョンのコンポーネントと機能、およびこれらが一緒になって包括的なエンタープライズ自動化工エクスペリエンスを提供する仕組みを紹介しています。



### Red Hat について

Red Hat は、受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

**アジア太平洋**  
+65 6490 4200  
[apac@redhat.com](mailto:apac@redhat.com)

**オーストラリア**  
1800 733 428

**インド**  
+91 22 3987 8888

**インドネシア**  
001803 440 224

**日本**  
03 4590 7472

**韓国**  
080 708 0880

**マレーシア**  
1800 812 678

**ニュージーランド**  
0800 450 503

**シンガポール**  
800 448 1430

**中国**  
800 810 2100

**香港**  
800 901 222

**台湾**  
0800 666 052

[fb.com/RedHatJapan](https://fb.com/RedHatJapan)  
 [twitter.com/RedHatJapan](https://twitter.com/RedHatJapan)  
 [linkedin.com/company/red-hat](https://linkedin.com/company/red-hat)

[#219883\\_0223](https://jp.redhat.com)

Copyright © 2023 Red Hat, Inc. Red Hat、Red Hat ロゴ、および Ansible は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds 氏の登録商標です。